

中世集落の発見 ～富ノ森城跡発掘調査の成果から～

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所 中谷正和

はじめに

1. 富ノ森城跡について

- ・富ノ森城跡は室町時代の平地居館跡と推定。史料は無く、築造年代や築造者は不明（山下 1986）。
- ・京都市伏見区横大路六反畑^{ろくたんはた}地内に所在。南西に桂川・宇治川・木津川の三川合流地帯、南東に古くは巨椋池を擁した低湿な沖積地に立地（図 1・2）。
- ・調査の経過（図 3）
1 次調査（1～3 区）：2020 年 1 月 17 日～7 月 17 日
2 次調査（4・5 区）：2020 年 12 月 18 日～（継続中）

2. 発掘調査の成果

（1）遺構群形成以前

- ・遺跡の基盤層（IX 層）は、細砂混じりの粘土・シルト層（氾濫原堆積物）と、その下層に砂礫層（河床堆積物）が堆積（図 12・13）。砂礫層から縄文時代から奈良時代頃の土器類が出土。

（2）鎌倉時代後半から室町時代前半

- ・今回調査区で確認できた最も古い遺構・遺物は鎌倉時代後半。
- ・幅約 1～3 m の溝で画された区画内に、掘立柱建物や柱穴、土坑などを確認（図 4）。遺構の重複が著しく、継続した土地利用が想定できる。
- ・区画 A の周辺では室町時代頃の焼けた瓦や塼が出土。付近に瓦葺建物が存在か。
- ・区画 B に鎌倉時代後半の井戸 44 を確認（図 5）。基盤層（IX 層）を大きく掘り抜いており、掘形の規模は一辺約 3.6 m、深さ約 3 m。水溜部底面は標高 6.0 m（当時の地表面は標高約 9.0 m）。井戸の埋土から土器類だけでなく、畑や道端・空き地など開けた環境で生育する植物の種子・花粉が多産。掘形埋土から刀形木製品などが出土。
- ・区画 A で木棺墓を確認。鎌倉時代後半の木棺墓（墓 555～557）では土師器皿や瓦器椀、須恵器壺、鉄製刀子が出土（図 6）。室町時代前半の木棺墓（墓 393・402）では土器類が出土。

（3）室町時代後半

- ・区画 A・B の周囲に幅 4～5 m の大溝（溝 50・255・256）。区画内に掘立柱建物や柵、土坑などを確認（図 7）。
- ・溝の主軸方位は北に対して東に振れるものが主体。
- ・大溝の埋土から多量の淡水産の貝殻や解体痕を持つ大型哺乳類（ウシなど）の骨が出土（図 17）。特に溝 50 ではオオタニシの貝殻が多量に堆積。
- ・溝 255 から五輪塔の空風輪が出土（図 9：石 1）。

（4）安土桃山時代から江戸時代初頭

- ・区画 A・B の周囲に幅 3～5 m の大溝（溝 30・230・246）。区画内に壺地業を伴う礎石建物・掘立柱建物や柵、土坑などを確認（図 11）。調査区南西部の遺構分布は希薄。
- ・溝の主軸方位は北に対して東に振れるものが主体。
- ・慶長元年（1596）の慶長伏見地震に伴うと考えられる噴砂を検出。
- ・溝 230 から五輪塔の空風輪が出土（図 9：石 2）。

- ・大溝の埋土から、多量の淡水産の貝殻や解体痕を持つ大型哺乳類（シカなど）の骨が出土。特に溝 30 や溝 246 では、オオタニシや二枚貝（イシガイ科）の貝殻が多量に堆積。

（5）江戸時代

- ・溝の多くは江戸時代初頭の位置を踏襲。幅 10 m 以上、深さ 1.5 m に及ぶものも認められる。
- ・直径 1.5～2.0 m×深さ 0.6～0.9 m の円形土坑を多数確認。円筒形の壁面に沿って薄い板が残存。
- ・溝 58 からはオオタニシやイタヤガイ（図 10）、解体痕を持つ大型哺乳類（シカなど）の骨が出土（図 16）。

3. 自然科学分析の成果

（1）層相分析

- ・調査区（2・3 区）壁面堆積層の観察と記載にもとづき、堆積環境変遷の検討を実施（図 13）。
遺構群形成以前：奈良時代頃から鎌倉時代後半以前、調査地は網状流路の河床。砂礫による流路埋没後ほどなくして、近傍の流路から供給された粘土・シルト（氾濫原堆積物）が堆積し、微高地が形成される。
鎌倉時代後半から室町時代前半：洪水堆積物の流入が少なく、地下水位が低く高燥な地表環境。
室町時代前半頃から安土桃山時代：洪水による冠水頻度が急増し、氾濫原が急激に埋積したと推定。
安土桃山時代から江戸時代前期頃：堆積速度が遅くなり、洪水堆積物の流入量が低下した可能性。
江戸時代中期から後期：洪水堆積物の堆積が大きくなるとともに、地下水位の上昇があったと推定。

（2）珪藻化石分析・花粉分析

- ・溝 230・255 埋土の堆積物試料中の珪藻化石群集と花粉化石を調べ、堆積環境について検討（図 8・14・15）。
溝 255（室町時代後半）：流水環境下に生息する中～下流性河川指標種群が多産。非常に緩やかながら、水が恒常的に流れる環境。花粉はイネ科・アブラナ科・クワ科の産出割合が高い。
溝 230（安土桃山時代）：陸生珪藻が多産傾向。溝 255 と比べて水の流量が減少し、有機汚濁が進んだ環境。花粉はイネ科・アブラナ科・ソバ属の産出割合が高い。

4. まとめ

- ・遺構の変遷と環境の変化
- ・遺跡における生業活動
- ・遺跡の性格について

参考文献

- 泉拓良・三宅由美 1986 「第 3 章 京都大学北部構内 BE33 区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報昭和 58 年度』京都大学埋蔵文化財研究センター 1986 年
- 山下正男 「京都市内およびその近辺の中世城郭 復原図と関連資料」『京都大学人文科学研究所調査報告』第 35 号 京都大学人文科学研究所 1986 年
- 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 『富ノ森城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2020—6 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2021 年

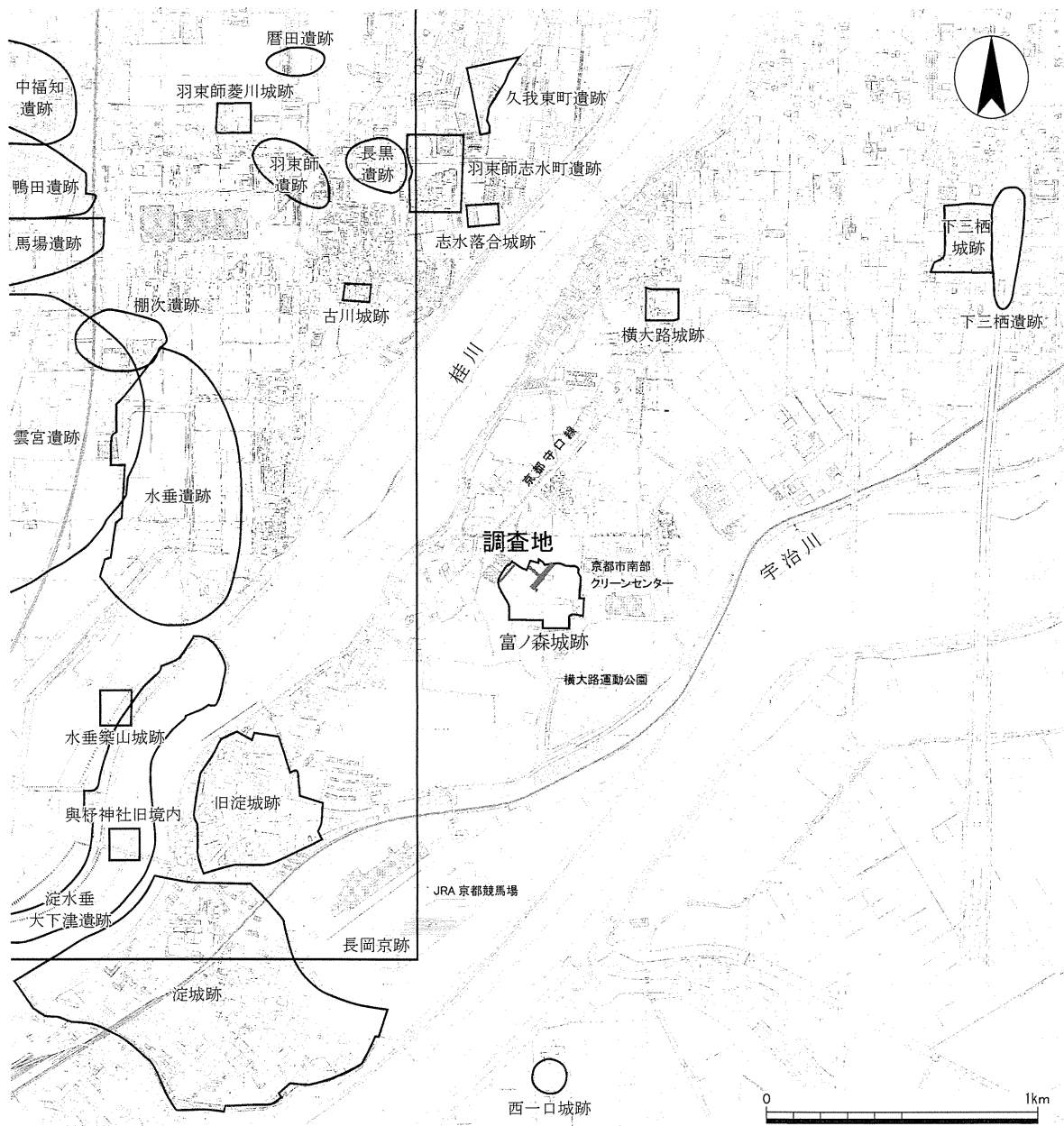


図1 富ノ森城跡と周辺の遺跡 (1 : 25,000)

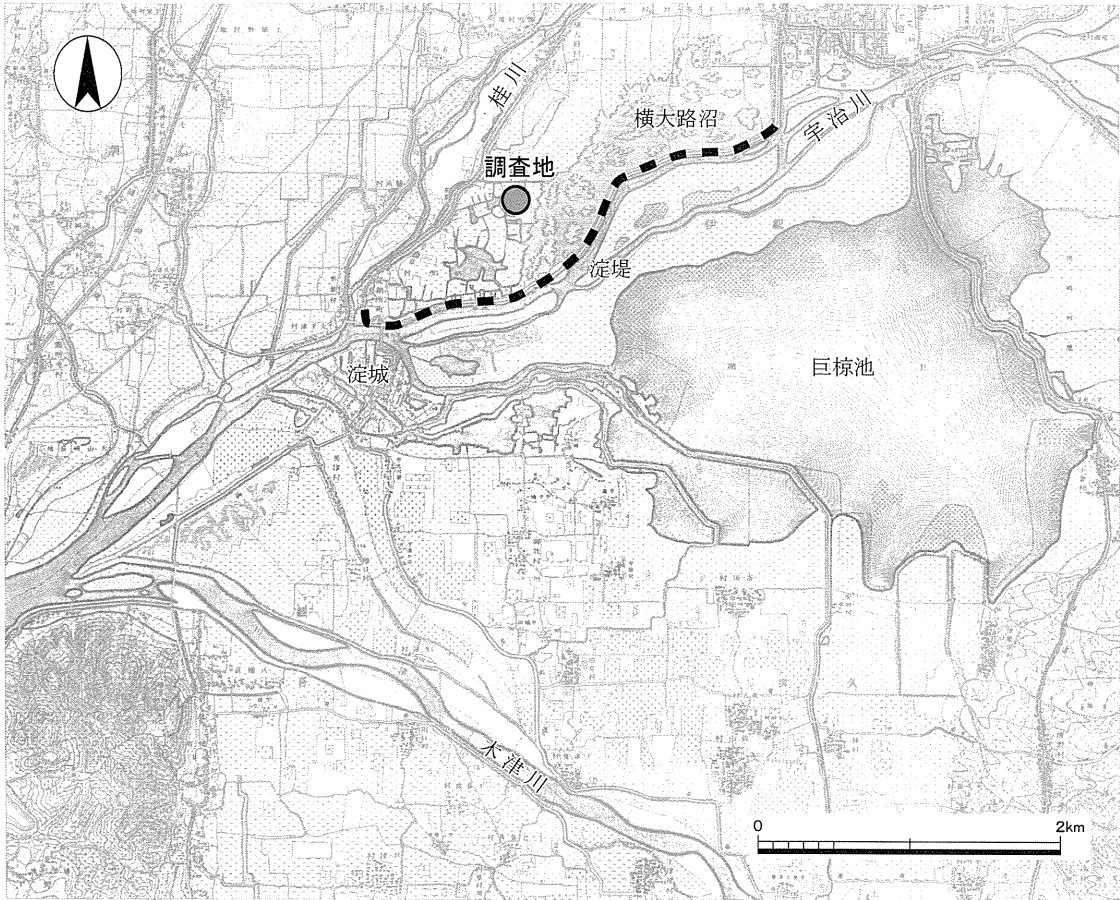


図2 明治23年(1890)陸軍参謀本部測量地図 (1 : 50,000)

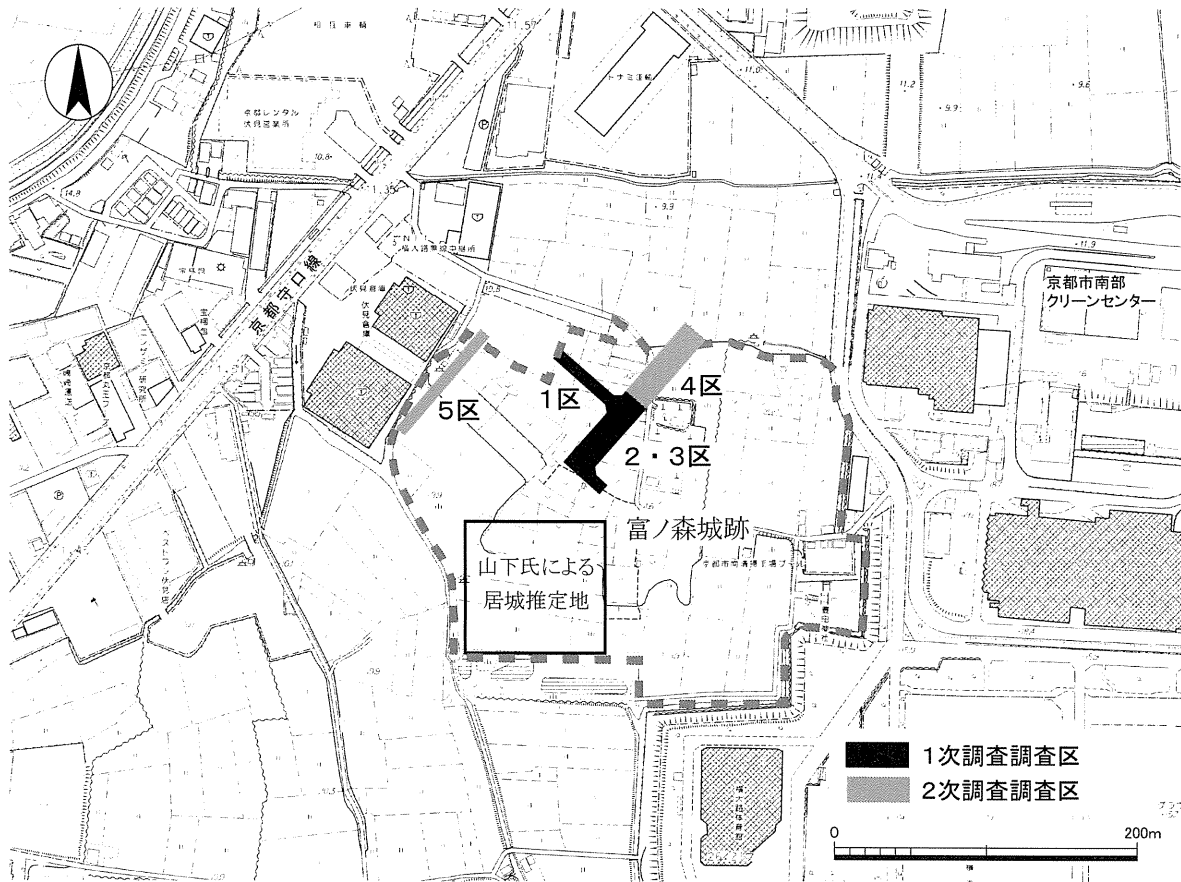


図3 調査位置図 (1 : 5,000)

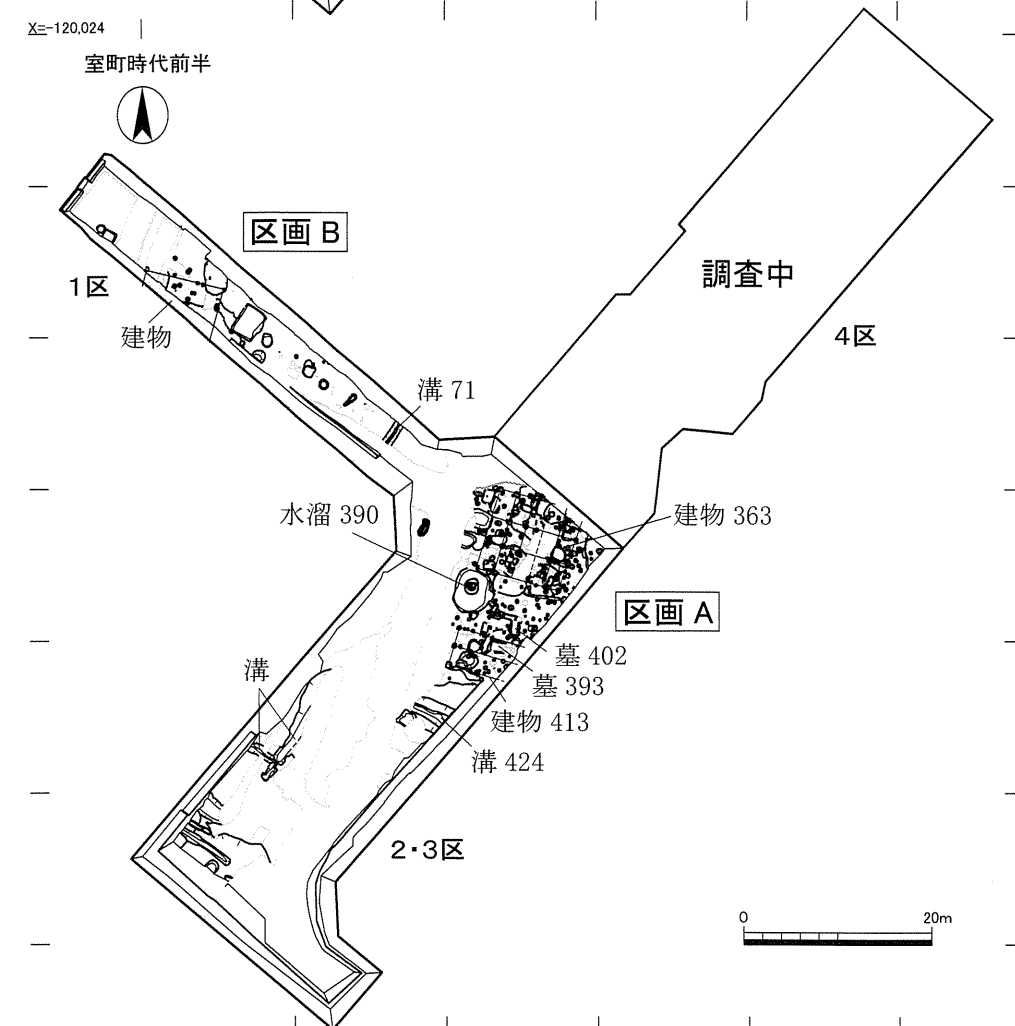
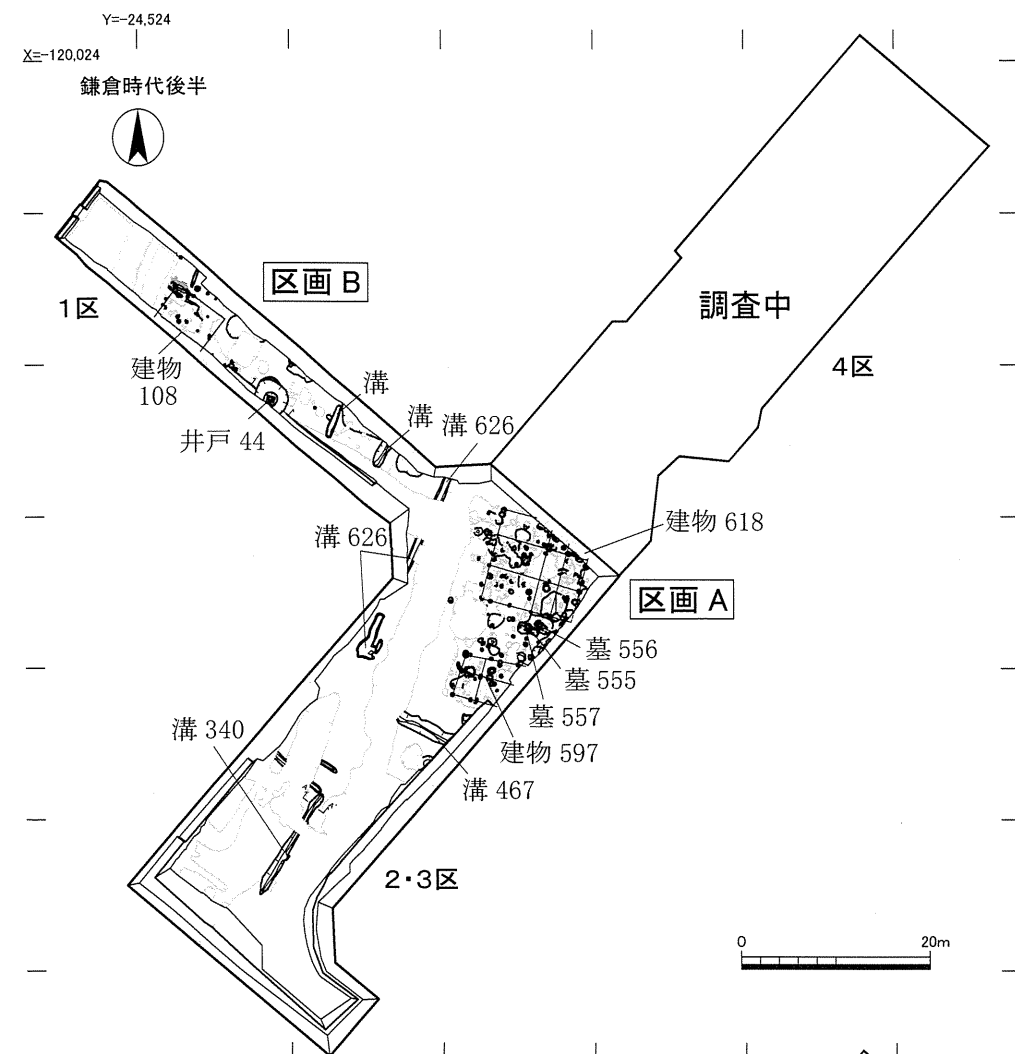


図4 1～3区 鎌倉時代後半～室町時代前半遺構平面図 (1 : 800)

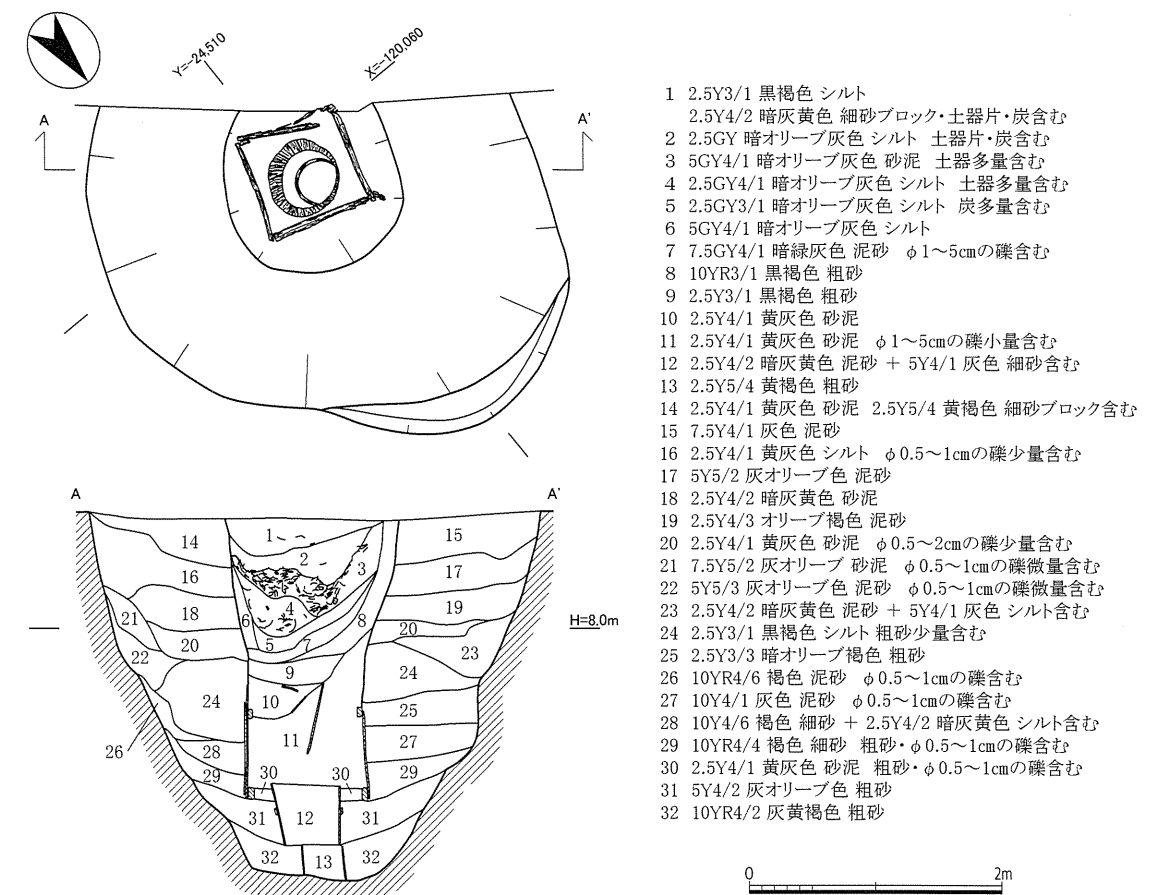
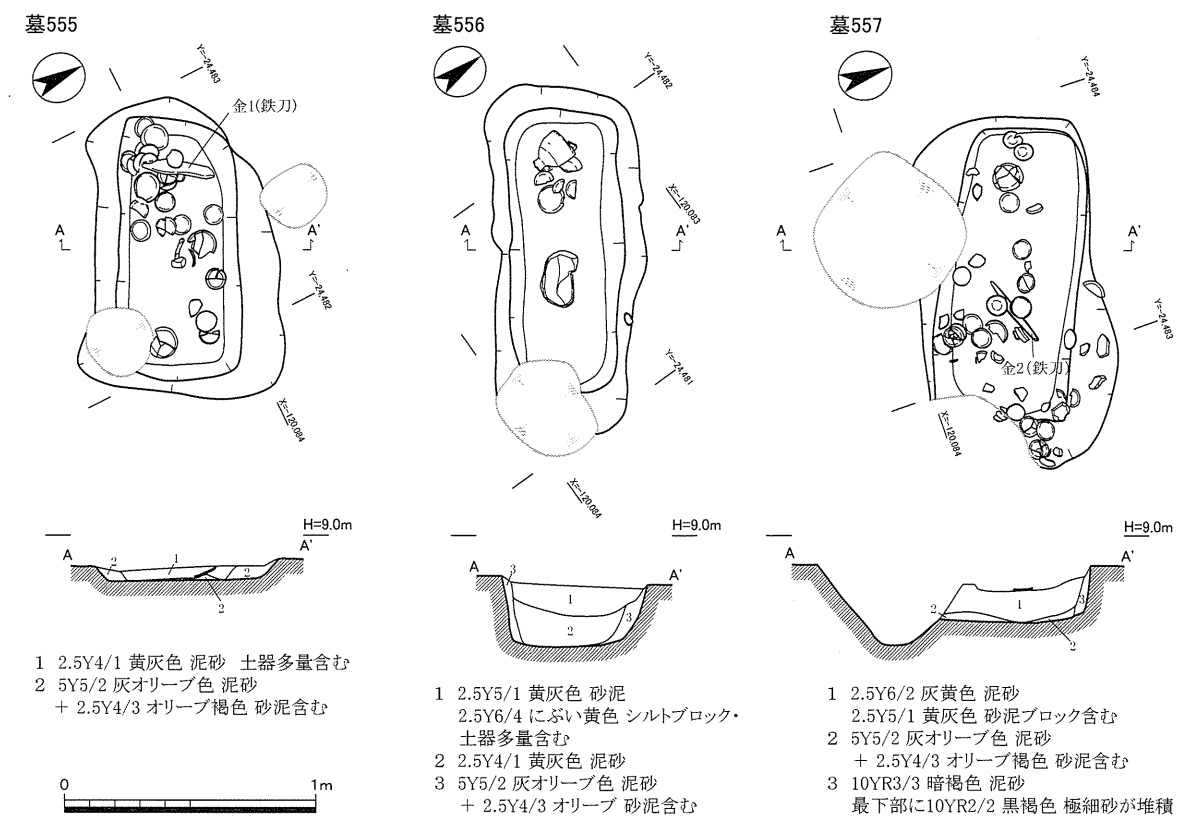


図5 井戸 44 実測図 (1 : 60)



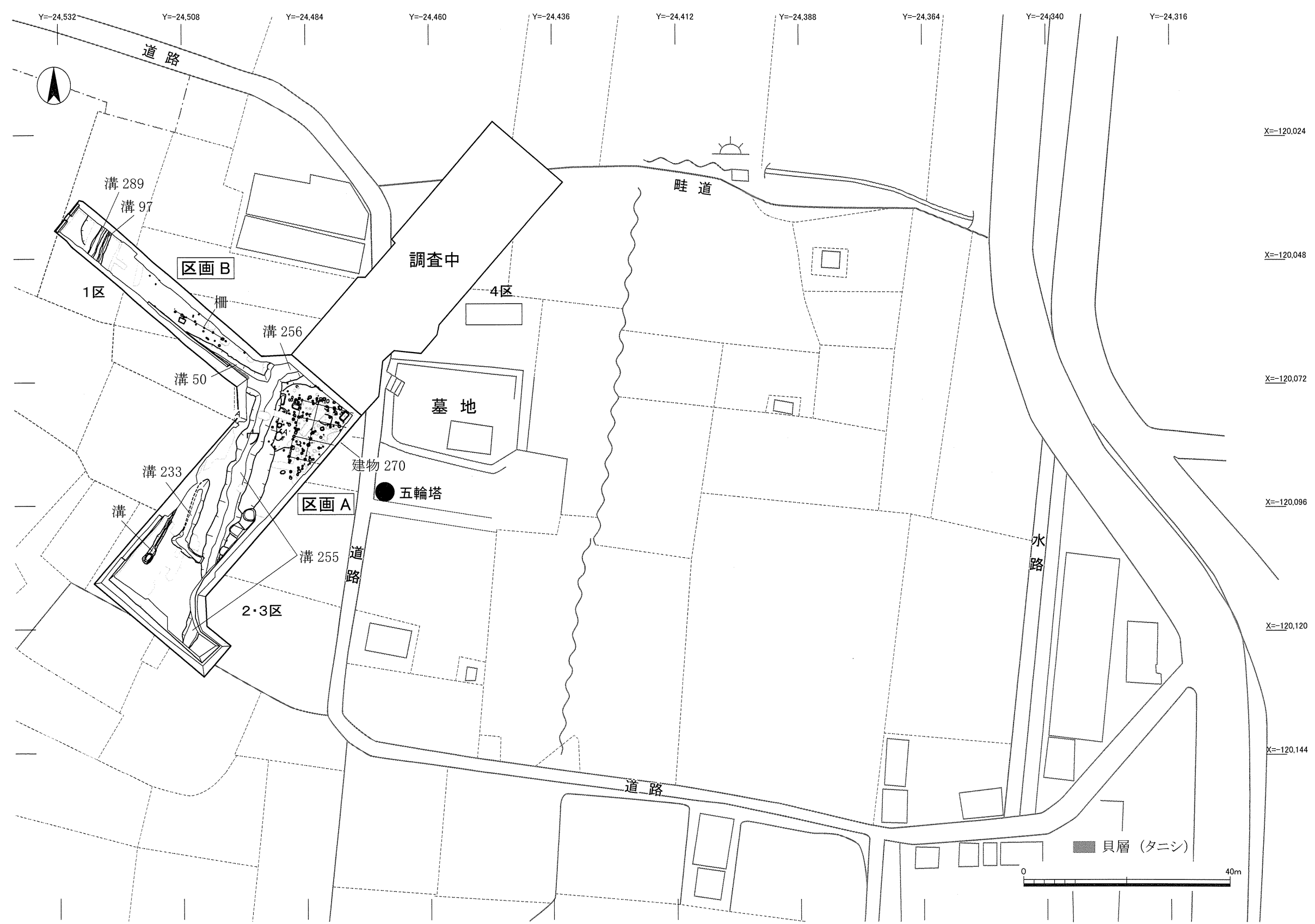


図7 1～3区 室町時代後半遺構平面図と周辺の地形 (1 : 800)

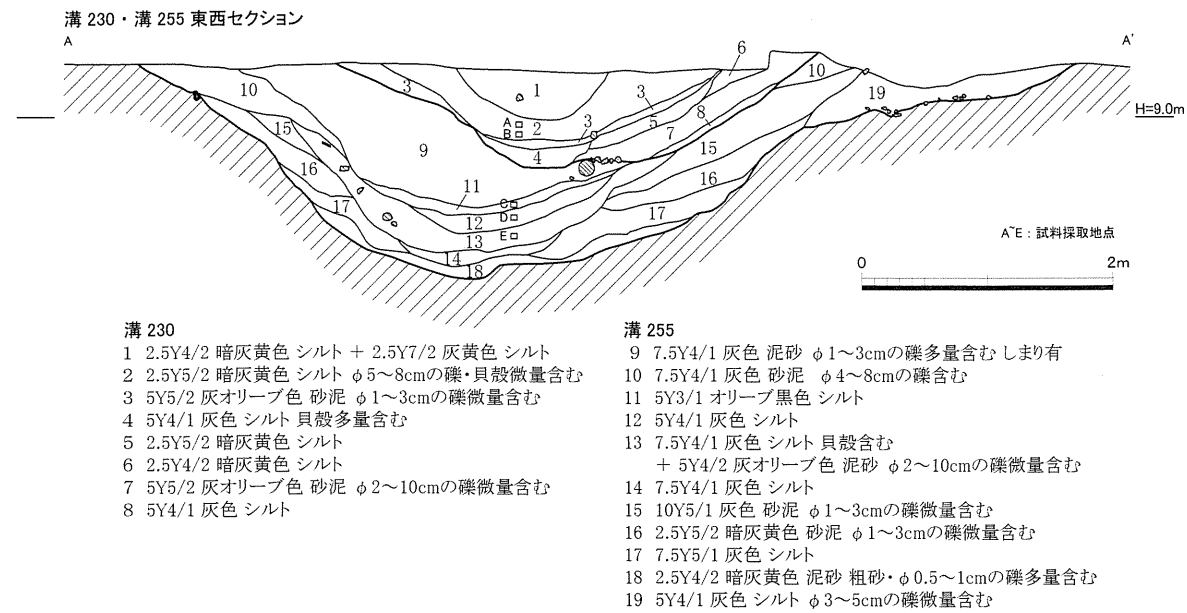


図8 溝 230・255 断面図 (1 : 60)

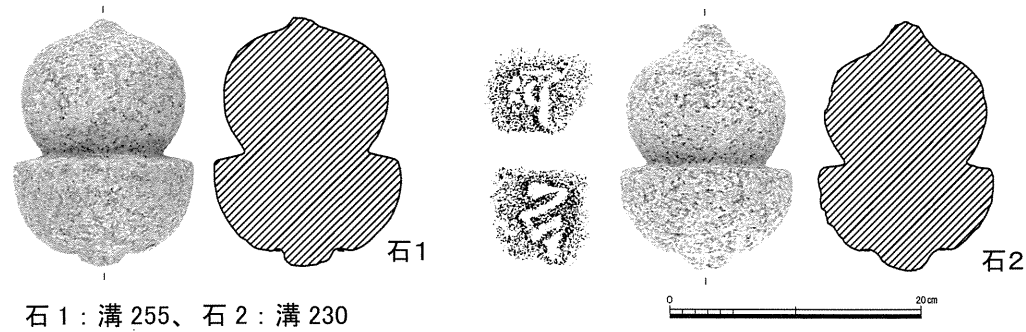
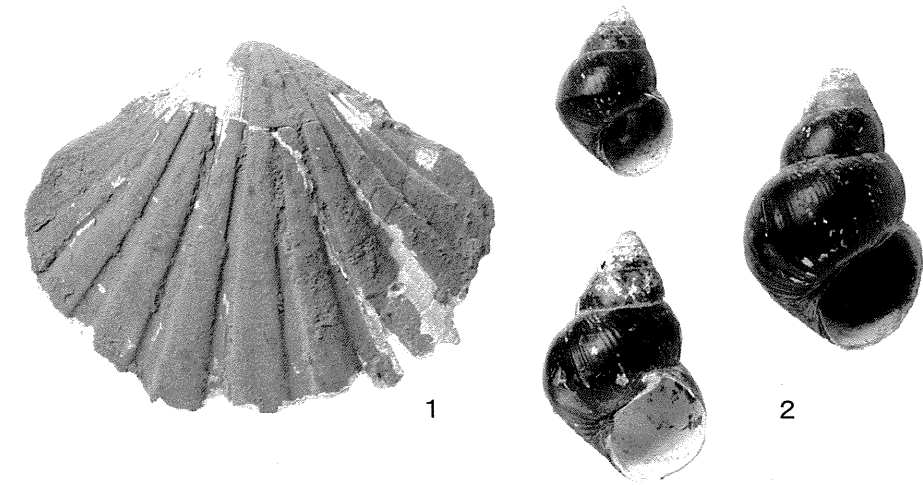
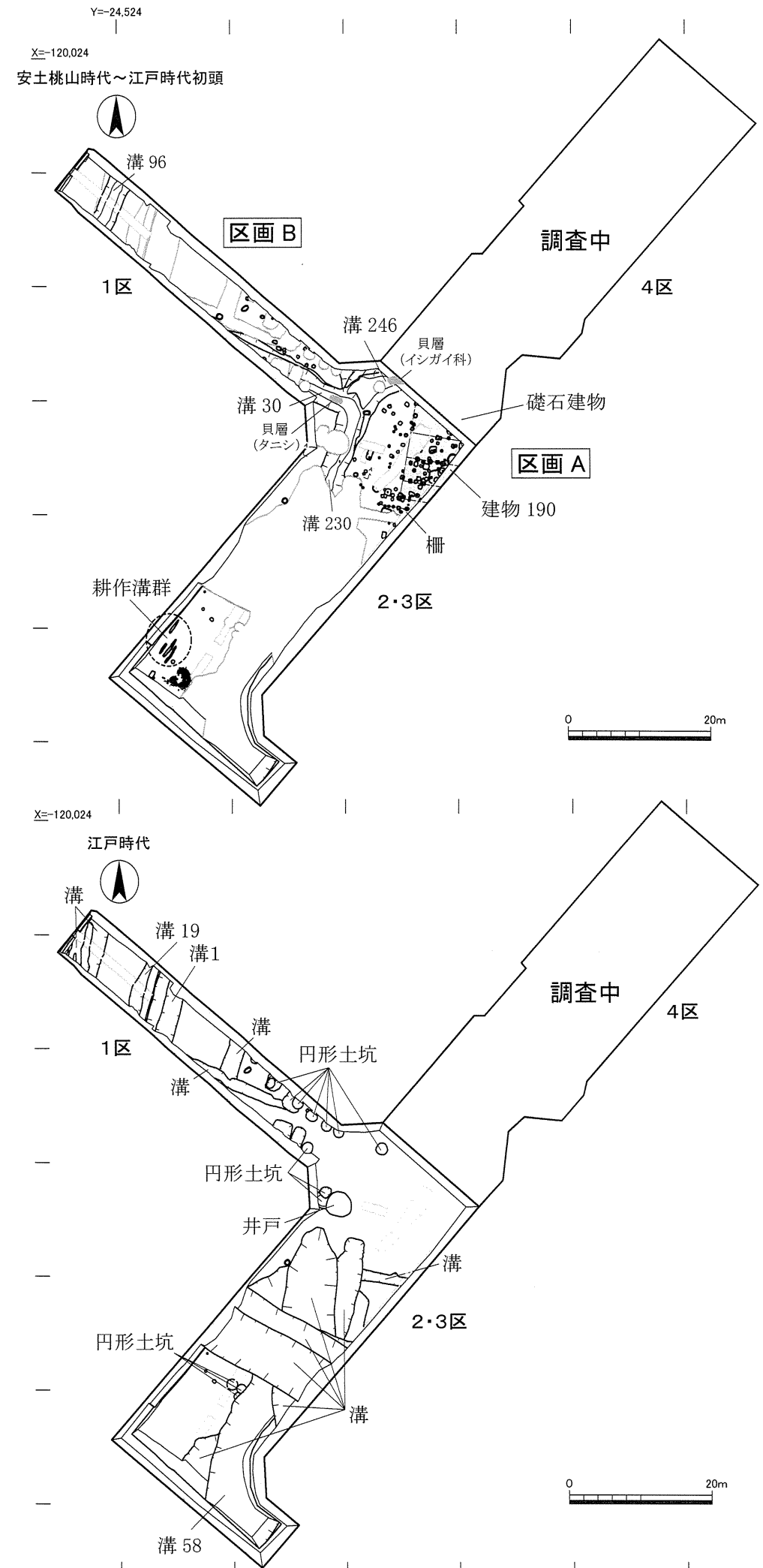


図9 溝 230・255 出土五輪塔（空風輪）(1 : 6)



1. イタヤガイ 2. オオタニシ

図 10 溝 58 出土貝類



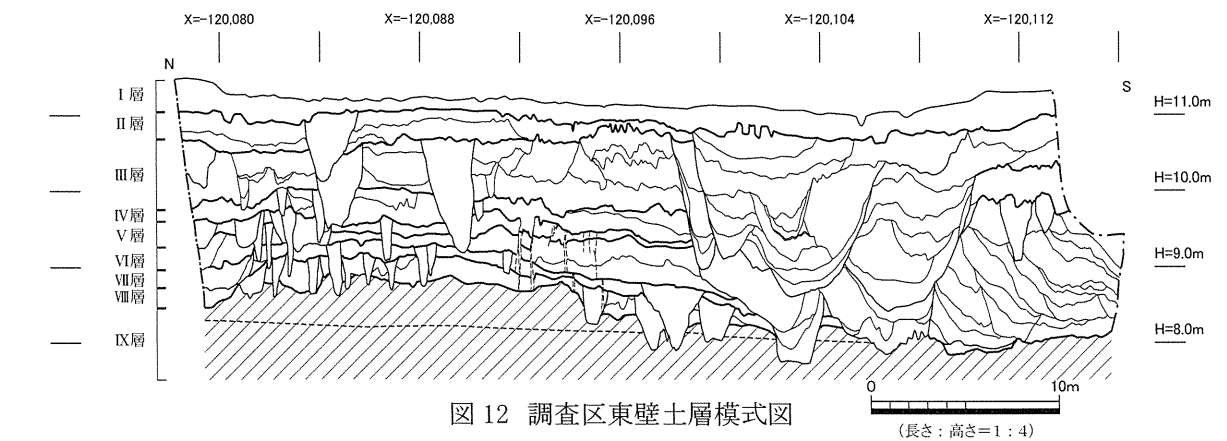
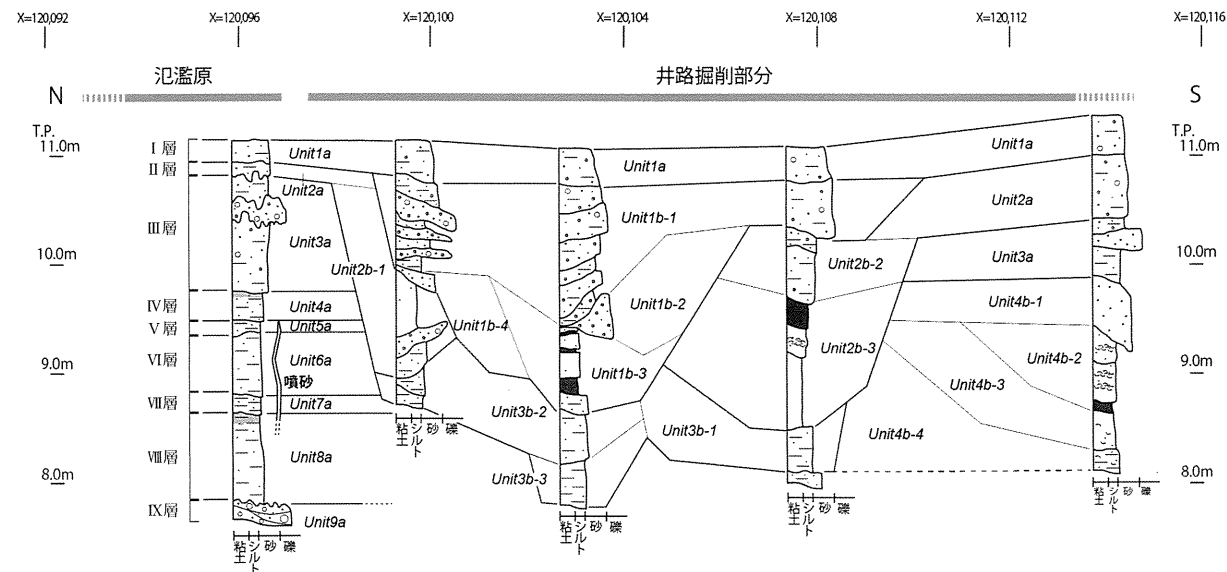


図 12 調査区東壁土層模式図



・溝の分析試料採取地点

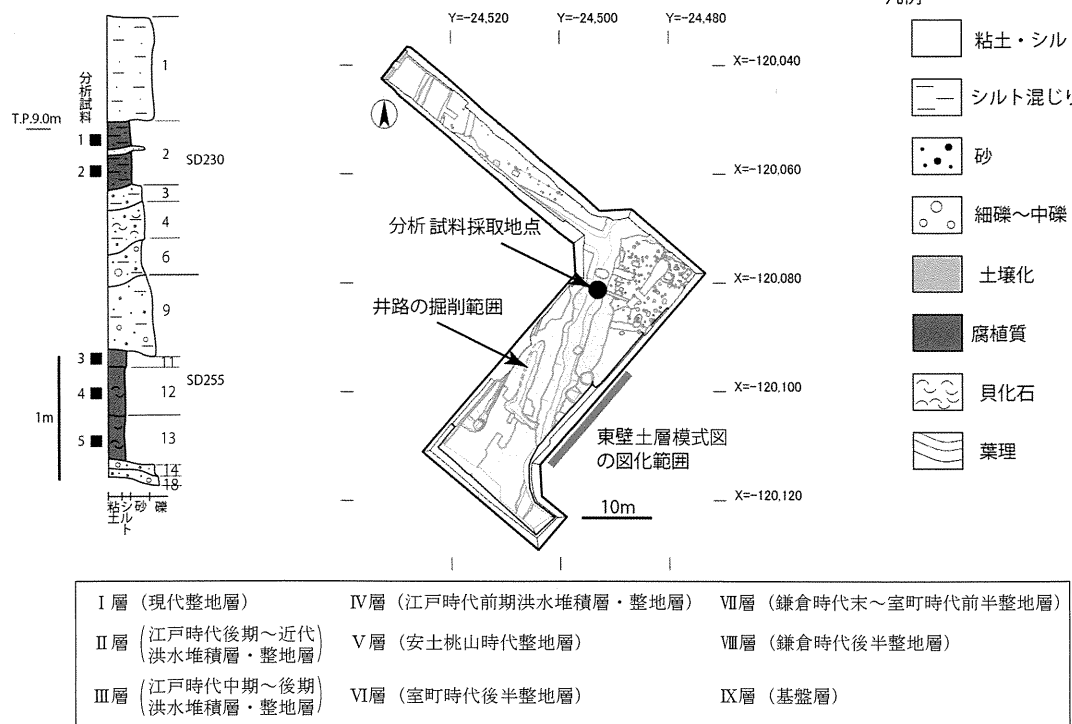


図 13 溝の分析試料採取地点の模式柱状図

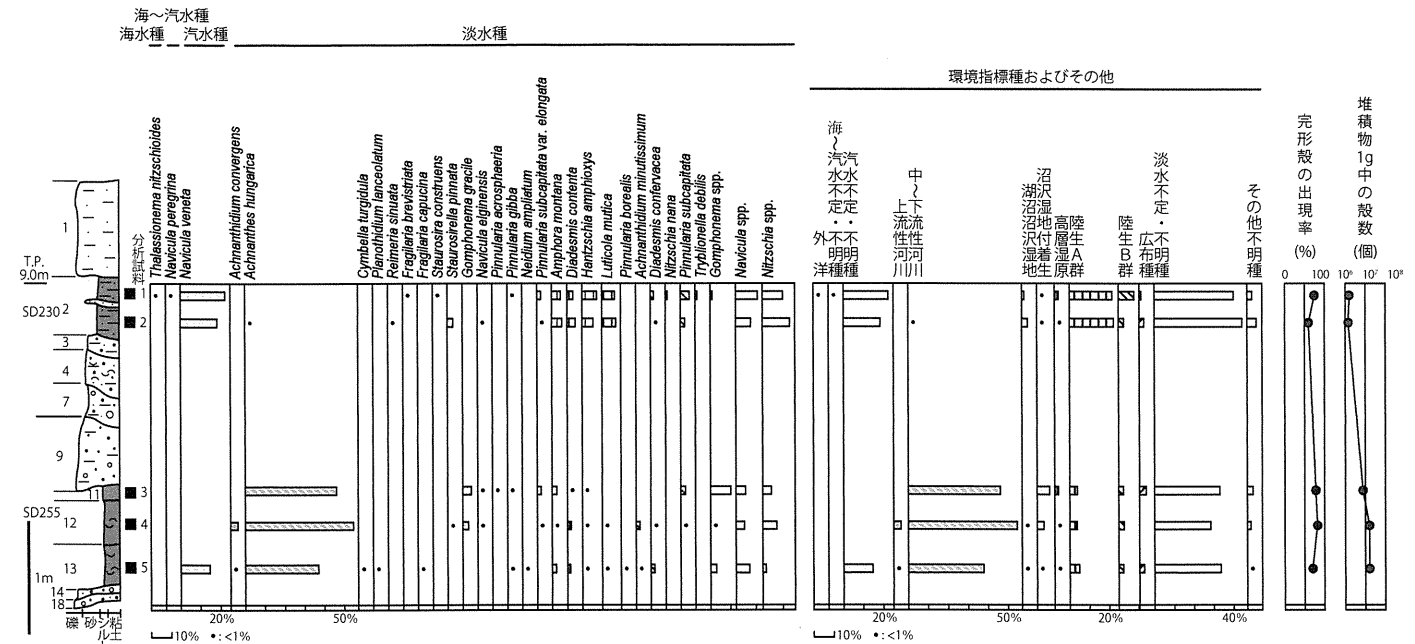


図 14 大溝堆積物中の珪藻化石分布図

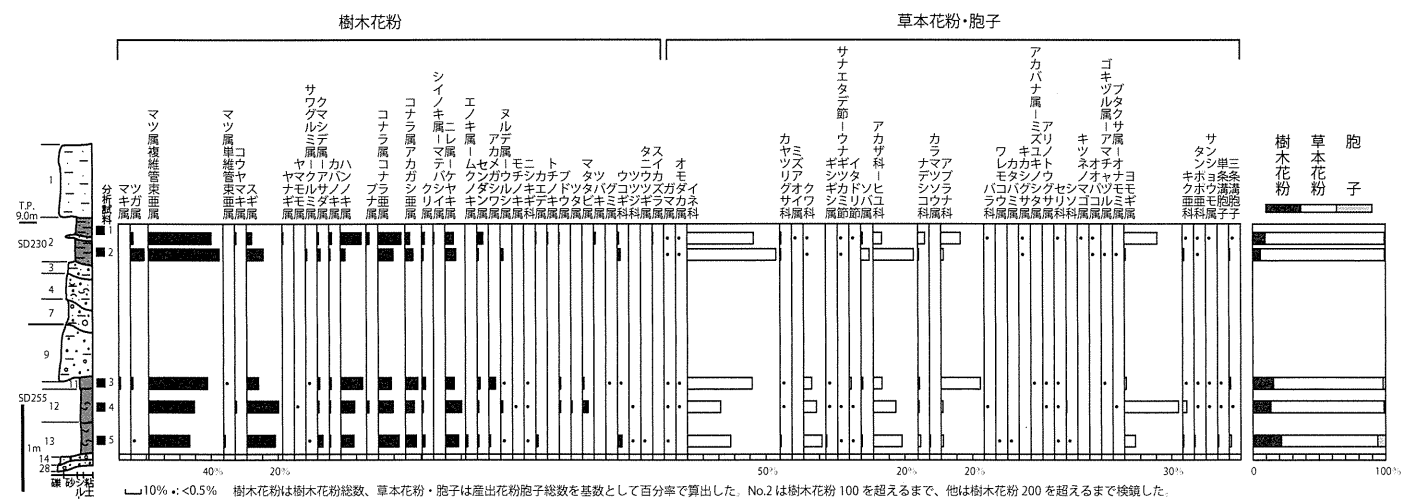


図 15 大溝堆積物中の花粉化石分布図

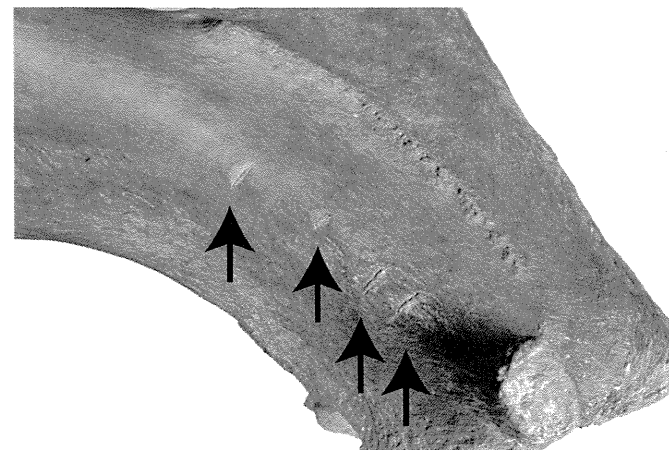


図 16 溝 58 出土シカ寛骨 (右) 座骨外側叩傷

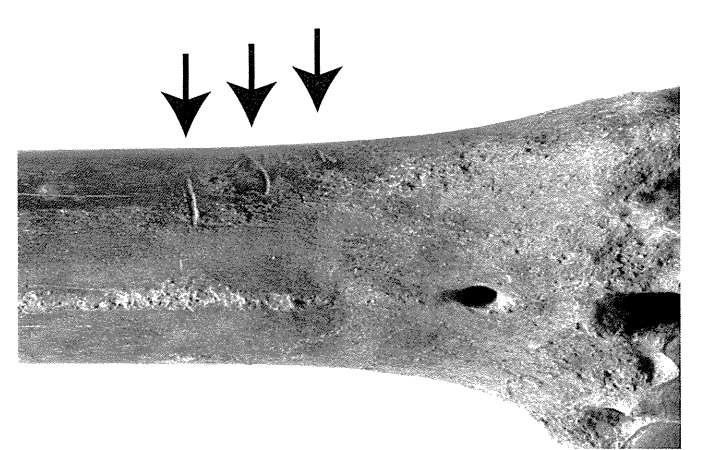


図 17 溝 255 出土ウシ中足骨 (右) 遠位部切痕